1月号

ステパノだより

No.272

今月の聖句

『人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。』

ルカによる福音書　第6章31節

◎1月の予定

5日(木)　教職員協議会
6日(金)　三学期始業礼拝・入学・転入願書受付(小)(～10日)
10日(火)　体験学習(中)（～12日）
11日(水)　入学願書受付(中)(～12日)
13日(金)　小学校入学考査・自宅学習日
14日(土)　小学校入学考査
15日(日)　大磯一周駅伝(陸上競技部)
18日(水)　体験学習(転入)（～20日）
26日(木)　マラソン大会
27日(金)　マラソン大会予備日・教職員協議会

◎2月の予定

3日(金)　中学校入学考査(～4日)
自宅学習日(中)
8日(水)　授業参観(～9日)
15日(水)　校内研修会

クリスマス祝会

12月16日、クリスマス祝会が行われました。全学年がホールに集まって観劇することは叶いませんでしたが、小中ともに自らの役割を全うし、素敵な一日になったことと思います。

◎今月の行事から

あけましておめでとうございます。

3学期は1月6日から始まりました。いよいよ今年度のまとめ、そして進級や卒業に向けての準備期間となります。子どもたち一人ひとりが4月以降の新たな生活を見据え、更なる成長をしていく姿を楽しみにしています。本年もよろしくお願いいたします。

○マラソン大会　1月26日(木)

大磯運動公園の園路を使用させて頂き、マラソン大会を行います。9:30頃から中学校（3.1km）がスタートし、小学生は小5･6年（2.2km）、小3･4年（1.7km）、小1･2年（1.2km）と順次、時間差でスタートします。

長距離走は辛いことも多いですが、そこに立ち向かう強い気持ちをこのマラソン大会で育んで欲しいです。体育の授業内で練習した成果を本番で十分発揮できることを期待しています。

当日は保護者の皆様の温かな応援で子どもたちの背中を後押ししていただけると幸いです。

お手伝い

学校長　佐藤　紀明

お子さんに『お手伝い』をさせていますか？以前、総務省が行った調査で、家の手伝いを「何もしない」と答えた子が16％もいたそうです。同じ調査で、アメリカ５％、韓国４％に比べると日本は高い数字と言えます。また内閣府は令和元年度版『子ども・若者白書』の中で「日本の若者の自己肯定感の低さには、自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっている」と分析しています。日本では「役に立つ」機会が減っているのです。

今の子ども達は部活や塾、習い事で忙しく、時間が全くないという現実ですが、お手伝いをよくする子は、『自己評価』が高く、将来に明るいイメージを持っている傾向にあります。

子どもが手伝わない原因としては、「自分でやる方が早い」「完成度が低いから」「危険」といった親の都合も多く挙げられています。共働きの家庭も多くなり、帰宅後は時間との闘いでもあるので仕方ないのかも知れません。

ですが、子どもにとってお手伝いは「誰かの役に立つ」ことのできる貴重な機会です。お手伝いは、子どもの『自己肯定感』を高め、嗅覚や触覚などの五感や、段取り力、想像力を伸ばすと言われています。協力して作業を行い、お互いに感謝することを学べる身近な体験でもあり、とても大切だと思います。

小学校で初めて家庭科を学ぶ時に、担当の先生から「家庭科は、これから生きていく上で一番、必要な教科です。」と言われました。社会人になって、この言葉を痛感しています。

家庭科の授業は、食べることが大好きなので調理実習はしっかり取り組みました。部活が終わって帰宅して空手に行くまでに自分でよく炒飯を作りました。電子レンジなど便利な調理器具など無い時代でしたが、炒飯だけは今でも美味しく作れます。しかし、裁縫は気が向かずに、裁縫の時は手先の器用な友達が全てやってくれました。サッカーソックスに穴が開いた時、陸上大会のゼッケンの縫い付け等、自分でやらなければならないことも全て母にやってもらいました。結果として、裁縫が苦手なままで、とても後悔しています。家庭科の授業、しっかりやれば良かったです。

生活していくために必要な作業「家事」は、時代背景を考えても、今後は晩婚化、高齢化によって、一人で生活する時間が私達の世代よりも、確実に長くなっていくと思われます。だから、男女関係なく家事はできた方がいいに決まっています。お手伝いを全くせずに、大人になってしまうと、困るのは子どもです。

家事とは「生活していくのに必要な能力」です。大人になっても洗濯物がたためない、ゴミを捨てられない、米の研ぎ方を知らないでは困ります。TVで「片付けられずに、足の踏み場もないゴミ部屋」など放送していますが、そのような大人になって欲しくないです。

お手伝いを頼むと、子どもの中で頼まれたことをやって達成感を味わい誉めてもらえるというように、責任を果たすことに対して、プラスのイメージが作られます。その結果、責任感を持って行動して、最後までやりきる力がついてきます。責任感の強い子は、ほぼ例外なく、家でもお手伝いを多くしています。

人は集団で生活をする生き物です。学校も集団で生活をする場です。集団に属した時、その集団の中で必要とされることで、自分の存在意義を見出すことができます。そして、その集団を愛するようになっていくのです。どんなに大変でも、「あなたでなければダメ」そうやって、自分を必要としてくれる場を、人は愛することができ頑張ることができます。逆に、誰でも代わりができ、別に自分が必要とされていなければ、愛することができないと思います。学校も家庭も同じだと思います。

子どもは、お手伝いとして役割をもらい、家庭や学校の中で仕事があり、その仕事が、家族や友達、先生に必要とされている。その結果、家庭や学校の中での存在意義を感じ、家庭や学校を愛するようになっていきます。

ある調査では、成人男性・女性の、家事のレベルというのは、子どもの頃のお手伝いの量と比例するそうです。お手伝いは、子どもの将来に関係します。失敗しても良いので、お手伝いの機会を多くして欲しいです。「一人で生きていける」そうなるように、お手伝いから責任感と家事力を養って欲しいです。

無意識の中に

小学校教頭　長谷川　誠子

今年の年の初めは、真っ白な雪を頂いたきれいな富士を眺めることができ、とても清々しい気持ちでのスタートとなりました。いつも目にしている景色も新年という思いで目にすると、また違う景色に感じます。

このお正月に中学生の姪とゆっくり話す機会がありました。小学校時代の思い出話には、学校や先生に対する素直な思いや考えがあり、心にずんとくるものもありました。子どもは一人ひとり違いますが、学校生活の中での子どもの様々な思いや、教員の言動が与える影響について新たに考えさせられる時間でした。一緒に話しているうちに、自分自身の小学生時代のことも思い出され、その中には今でも忘れられない出来事がありました。

それは、小学校５年生の体育の授業のことです。跳び箱の授業で「台上前転」という跳び方の練習をしていました。小学生の頃は体育がわりと得意な方でしたので、普通に跳ぶことはなんなくできました。しかし、「台上前転」だけがどうしても怖くてできなかったのです。何度やっても手をついて頭を入れることができません。何度もやるうちに、「できない。できない。」という思いでいっぱいになっていきました。

跳び箱のテストの日が近づいたそんなある晩、「台上前転」ができた夢を見たのです。単純な私は、朝、目覚めると今日はなんだか跳べそうな気がしてきました。

体育の時間になり、練習が始まりました。順番に跳び始め、ついに私の番がきました。踏切板を蹴り、台に手をつき、頭を入れると、なんと台の上でくるりと前転することができたのです。この時は、本当に嬉しくて嬉しくてたまらなかったことを今でもはっきりと覚えています。その後は、今までのことが嘘だったかのように難なく跳べるようになりました。

何度やってもできなかったという経験から、もうできないと思い込み、心も身体も固まってしまったように感じます。しかし、跳べたという夢で跳べないというふうに決めつけていた思いが崩され、切り替えることができたようです。

このような状態が、以前目にして気になっていた「アンコンシャス・バイアス」だと気づかされました。

「アンコンシャス・バイアス」とは、「無意識に偏ったものの見方」で「無意識の思いこみ」や「無意識の偏見」などというものです。これまでに経験したことや見聞きしたことに照らし合わせて、あらゆるものを自分なりに解釈するという脳の機能によって引き起こされるものだそうです。これは誰にでもあるもので、あることそのものが悪いわけではなく、問題なのはそれに気づかないうちに決めつけたり、押し付けたりしてしまうことだそうです。「アンコンシャス・バイアス」というものがあるということを意識して行動していくのが大切だということでした。

子ども達の中にも、苦手意識から、すぐにできないとか、やらずに諦めてしまう子が見られます。しかし、それには「無意識の思い込み」ということがあるかもしれません。そのことに気づいて、できるかもしれないと気持ちを切り替えられれば、意外と「できない」から「できる」に「苦手」から「得意」に変わるかもしれないと自分の経験から感じます。

人と話すということで自分自身のバイアスに気づくということも多々あります。私も家族や周りの人たちとの関わりから、気づかされ、力をもらうことがたくさんありました。相手のほんの一言が、気持ちをリフレッシュさせたり、別視点を与えたりすることができます。バイアスがかかってしまい戸惑っている子ども達が、新しい一歩を踏み出せるようなきっかけ作りを考えていきたいと思います。

神様の御恵みの内に３学期を無事に始めることが出来ました。子ども達は元気に登校しています。子ども達のさらなる成長を願いつつ、共に心も体も健康で生き生きと過ごしていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願い致します。

これぞ、ステパノ学園

教諭　飯田　裕美

12月16日、クリスマス祝会が行われました。小学校はオリジナル劇、中学校は聖劇という3年ぶりに全学年縦割り活動での祝会でした。

ステパノ学園は行事を大切にし、また行事によって子どもたちは育ってきました。しかし、このコロナ禍で行事がほとんどできない日々が続き、歯痒い思いをしてきましたが、制限はある中でも今年度は多くの行事が再開されました。祝会もその1つです。また今年度の中学校聖劇を担当させて頂きましたが、全体での指揮を担当するのは初めてのことだったので、「私で大丈夫だろうか…。」と正直なところ不安を感じていました。

2学期の期末試験最終日から祝会に向けての活動が始まり、役者、大道具、衣装、照明、そして今年度は音響に加えて映像という新たな役割を設け、子どもたちにアンケートを取りました。第1希望に添えなかった生徒は個別に相談しましたが、皆快く了承してくれました。また脚本は、今まで劇を担当して下さった先生が書かれたものを参考に、新たに、3人の学者そして羊飼いたちは聖書科の先生と相談し、セリフを自分たちで考えてもらいました。

役者たちは皆、早々にセリフを覚えてきてくれて、各場面ごとで見合う時間を設け、アドバイスを出し合い、練習を日々重ね、お互いを高め合っていきました。同時に、照明係も役者と共に常に活動し、役者に負担が少ないよう優しく照らすこと、タイミングを合わせること、ミスを減らすことに日々努力してくれました。衣装係は、衣装へのこだわりの強い私の要求に必死に応えてくれ、また役者のヘアメイクも担当し、祝会当日も朝早くから来て、役者たちの髪型をセットし、裏では走り回ってくれました。大道具係は、巻物や羊などの小さなものから、宿屋の扉、ヘロデ王の玉座、焚火などの大きなものを祝会直前までかかって作ってくれて、絵コンテ通りに仕上げてくれました。そして、音響・映像係は、聖歌隊の録音編集から、場面にあった選曲、また新たにiPadを数台活用しての映像配信も行ってくれました。

直前まで照明や大道具の出し入れなどなかなかタイミングが揃わなかったのですが、最後の通し練習ではほぼミスなく、完成度の非常に高い劇を作り上げることができたので、「明日はきっと素晴らしい発表ができるぞ。」と手応えを感じました。

そして祝会当日。小学生の可愛いらしい劇の後、演劇部のアナウンス、そして中学生の劇という流れの中、20分の休憩があるにも関わらず早々に子どもたちはホールに集まってきました。それぞれが緊張の面持ちで、また約2週間という短い期間の中、同じ思いで、同じ目標を持って頑張ってきた子どもたちの今日という日への思いが伝わってきました。その流れのまま子どもたちに話をした後、それぞれの活動場所に移動し、幕が開きました。

子どもたちは素晴らしい時を進めて行きました。全員が全力を出す様子やステパノっ子ならではのひたむきさや懸命な様子に、目の前で観ていた人たちはきっと心を動かされたのではないでしょうか。来年こそは小学生にも保護者の方々にも彼らの姿を共有できることを願っています。

ナレーターの最後のセリフの後、役者たちが一斉に顔を上げ、一方向を見つめる。聖歌隊による「みつかいの主なるおおきみ」が流れ、歌が終わるのと同時にピタリと幕が閉まる。みんなの目標が達成した瞬間でした。

後日、祝会の感想文を書いてもらいましたが、一人ひとりが達成感を感じられたこと、得るものがあったことが書かれてあり、とても嬉しく思いました。何より縦割りを通じて学年の距離が近くなったことや、先輩たちの凄さを感じた後輩たちが今後のステパノを引き継いでいく様子が目に見えるようでした。

この素晴らしい時間を作り上げてくれた子どもたちに、そして何より、私に多くのサポートを、そして同じ思いで祝会を作り上げて下さった先生方にただただ感謝しております。

生徒も先生も皆が目標に向かって一つになる、これぞステパノ学園！ということを改めて感じられた素晴らしい祝会でした。

Back to the BIBLE～聖書に立ち帰る～

教諭　佐々木　心

「しなやか」という言葉を聞いて、どのような物を思い浮かべますか。強風に耐える木の枝でしょうか。何度踏みつけられてもまっすぐに伸びる花々でしょうか。はたまた、鍵盤をおさえる手指や、老人の健康的な足腰でしょうか。「しなやか」とは、第一に〝弾力があってよくしなうさま。よくたわむさま。〟との意味があります。弾力があるとは、強い力が加わっても元の姿や位置に戻れるということだと想像できます。

先に結論を述べるとすると、この「しなやかさ」が、人の心にも必要であるということです。

ここで言うしなやかさは、強さ、とは少し異なります。強い心を育てる、とはよく言われますが、ただ強いだけの心では、時に他者を傷つけるもとになります。また、培ってきた強さを超える圧力がかかった時、砕けてポッキリと折れてしまう原因にもなります。こんな時、砕け、折れてしまった心が元に戻るには相当なエネルギーが要るのではないでしょうか。また、柔すぎる心では、四方八方からの困難に耐えることができず、形が崩れてしまいます。

では、諸々の苦難や誘惑をしなやかに受け止め、元に戻すとき、戻るべき心の姿とは何でしょうか。人それぞれに形づくられた心を、自分らしき元の姿にするためには、どうすればよいのでしょうか。それはまさに、日々語られる神の言葉、つまり聖書の御言葉なのです。「だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。（マタイ十章十六節）」イエス様はこのように語られます。つまり、バランスの取れた知恵と平和を作り上げる姿が、私達人間が戻るべき心の姿であり、また絶えず鍛錬され、御言葉に立ち帰ることが私達のミッションなのではないでしょうか。そうすることで、私たちは更なるステップに前進するパワーを頂けるのだと思うのです。

十年ほど前にヒットしたドラマ「JIN - 仁 -」の医者・南方仁や、白血病を乗り越えて復帰した競泳の池江璃花子選手、また元プロ野球の桑田真澄選手など、日本に励ましを与えた多くの著名人が「神は乗り越えられる試練しか与えない」という言葉を口にします。この言葉が聖書の御言葉を源流としていることは有名な話ですが、ではなぜ、神様は私達の人生に敢えて試練を与えるのでしょうか

「あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。（ヘブライ十二章七節）」無論、しなやかさというものは鍛えられることで更によくしなるようになること、父なる神が私達を愛しておられるが故の訓練として、試練を与えられることがここで語られています。したがって、神様は試練と共に、逃れの道をも与えてくださることを約束してくださっているのです。

予測不可能な現代だからこそ、何が襲ってもしなやかな心を保ち続けるには非常に勇気のいることです。怖く感じることもあります。「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走（道）を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。（ヘブライ十二章一節～二節）」

このような時代に、聖書という立ち帰り場所を持っていること、揺るぎない神様との約束を見つめて進めること。これほどまでに心強いことは他にありません。私達が何をすべきか(Doing)、私達がどう在るべきか(Being)の答えは、いつも必ず聖書にあります。ですから、いつもBack to the BIBLE―いま必要な心の姿を祈り求めることを忘れず、しなやかに生きていきたいものです。

「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた身を結ばせるのです。だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい。（ヘブライ十二章十一～十二節）」

【小学校】

小学校では、クリスマス祝会でオリジナル劇に取り組みました。一・二年生も子羊役として出演し、三～六年生は舞台の道具の準備から、セリフを覚えるだけでなく、動きや表情、声の出し方なども工夫しながら練習に励んでいました。その時の思い出の日記を紹介します。

今日は、クリスマス祝会がありました。ぼくは先生役でした。澤邉先生が「R君声がすごく大きくてよかったよ。」と言っていました。それに校長先生に「R君セリフ上手だったよ。」とほめてもらいました。ステパノに入ってよかったと思いました。（5年K・R）

今日はクリスマス祝会でした。道具の準備やセリフも覚えて、大道具・小道具の準備と出す場所も覚えました。今日クリスマス祝会当日でできました。すごく楽しかったです。（5年S・O）

今日は祝会本番でした。ここまで練習と道具作りをやってきて途中から練習だけになった道具づくりの時間が追いつめられましたが、セリフを覚えて本番までできました。

祝会本番は緊張してたとしても、ひかえ室から舞台袖を通って出てくる動作と、セリフや演技をしっかりできたので良かったです。（5年H・N）

今日はクリスマス祝会でした。ぼくたち小学校はまよえるひつじたちでした。ぼくのセリフなど、わすれずにミスをせずに言うことができました。しかも小5全員しっかりできました。ちゃんと練習したこともできたり、出番の時にしっかり出てきたりできました。ぼくはセリフを言うときにうしろを向いてしまっていることがあるので、前をむいてセリフを言えばよかったです。中学校の聖劇もおもしろかったです。祝会が成功してよかったです。（5年T・G）

3年生がロイロノートで祝会の思い出を絵に描きました。

（3年A・M）

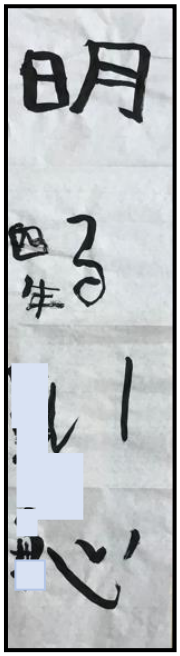
（3年Y・S）

4年　書き初め

（4年F・K）

（4年O・T）

（4年M・Y）



（4年H・N）

【中学校】3年ぶりに縦割りでの祝会が行われました。その時の思いを作文に書きました。

私は初めて聖劇で照明係をやりました。最初は照明の使い方が分からなかったけれど、3年生の先輩が教えてくれたので覚えることができました。

照明は役者さんを輝かせるという役割があります。初めて役者さんと合同でやった時にタイミングを間違えたりしたことがあったけれど、先生方のアドバイスを元にしたら、徐々に失敗も減っていって先生方にほめられた時は嬉しかったです。でも、大道具さんが入ったら違う時に照明をつけてしまったこともありましたが、慣れてきて間違いが1つだけになったのは本番の前日でした。この調子で本番は1つもミスしないように3人で協力しました。そして本番は1つもミスせず完璧にやることが出来たので本当に良かったと思います。

私は練習ではあんなにミスをしていたのに本番では成功すると思いませんでした。今回の劇は本当に素晴らしいと思ったし、役者さんや大道具さん、衣装さん、音響さんたちも最後まで頑張ってくれたと思いました。来年は保護者さんたちも迎えてできたらいいと思いました。（照明H）

二〇二二年度のクリスマス祝会より私は様々な事を学ぶことが出来た。今回、東方の三賢者の一人を演じた。同じ賢者を演じる役者と顔を合わせた後は、毎日練習を始めた。アドリブの台詞を相談しながら他の台詞を覚える。私たちの演技は色々な人から絶賛してもらい、とても喜ばしい思いで満たされた。練習は日々続き、日ごとに実力が上がる、そんな気がした。そして迎えた本番の日。緊張した空気が張り詰める中、劇が始まった。それぞれが努力した成果で上手く進行する。そしてついに、私たちの出番が来た。遥か東の国より来た三人の賢者たち。私たちは彼らを胸の中に入れ、舞台へと出る。一つ一つの場面で彼らの姿を表現し、観客に見せることができた。無事に劇が終了し、閉幕の時にこれまでの努力が花開いたこと、心から安心した。劇の後も多くの方々よりおほめの言葉を頂き、とても嬉しい気持ちだった。

今回の役者としての経験は、中学生活最後にして最大の物となった。今回得たものをこれからも温めて、育てていきたいと思っている。（役者T）

12月16日、聖劇の本番がありました。11月30日から練習を頑張ったので、ものすごく良い劇ができました。

僕は照明係でしたが、S先輩とぴったり息を合わせてライトを消すのが難しかったです。天使がマリアの元に現れるシーンがあり、天使がすごくきれいでした。宿屋のシーンでは、大道具の係の人たちが大きなドアを3つも作ってくれて、本当に昔の街並みみたいになっていました。3つ目の宿屋の人がヨセフをどうしても泊めてあげたいという気持ちが上から見ていてよく伝わりました。ヘロデ王のシーンでは、ヘロデ役の人が上手で、すごくクオリティーが高く、本当に怒っているようでした。その中でも、兵士をライトで追いかける所がこの劇で1番大変でした。羊飼いのシーンでは、羊飼いたちがたき火を見ながら羊をなでているところがすごく良かったと思いました。幕が閉まっている時の「みつかいの主なるおおきみ」の特に4番のディスカントがすごく上手でした。

僕は練習の最初からみんなの劇をずっと見ていたので、みんながどんどん上手になっているのが分かりました。

色々あったけれど、皆でやった聖劇は楽しかったです。次は役者をやってみたいです。（照明N）

自分の係は大道具でした。大道具は天使ガブリエルが乗る岩だったり、宿屋の扉だったりと色んなものを作りました。ですが、自分は休んでいる時があったのですが、他の大道具係さんが自分の分までやってくれていてありがたかったです。

本番はやっぱり緊張しました。通し練習も少し緊張はしましたが、本番は小学6年生も観ているし、練習の時に言われた通りにできているかがすごく不安でした。でも、終わった後の達成感や、やりきった感はすごかったです。

係活動の時に「大変だな」と思うこともありましたが、大変な思いをしたからこそ、良い劇が作れたんだと思いました。

普段あまり関わらない先輩達とも関わることが出来て良かったです。3年生は今年が最後で、もうすぐ卒業もしてしまい、関わることも無くなってしまうので、良い機会だったと思いました。

聖劇は今年で自分達も最後ですが、来年のクリスマス祝会もみんなの思い出に残るような劇にしたいです。（大道具K）

東京・丸の内に新しい美術館「静嘉堂文庫美術館」が開館しました。文庫創設一三〇周年の二〇二二年十月に世田谷区から移転し、「静嘉堂@丸の内」という愛称で新たに展示活動を始めたこの美術館は、本校の創設者・澤田美喜先生のご実家である三菱財閥の美術品コレクションによるもので、国宝七件、重要文化財八十四件を含む、約六五〇〇件の東洋古美術と二〇万冊の古典籍がそろいます。

静嘉堂を創設した岩崎彌之助は、兄・彌太郎（澤田美喜の祖父）の後を継ぎ、丸の内ビジネス街の基礎を築き、三菱第二代社長として発展に努めました。同時に、静嘉堂文庫で国史編纂事業を行い、国の宝である刀剣や書画・典籍など東洋固有の文化財を海外散逸から守りたいとの矜持で蒐集したといいます。彌之助は、オフィスだけでなく美術館などの文化的施設を造ることも夢として語っており、明治二五年（一八九二年）頃には、イギリス人建築家のジョサイア・コンドルに「丸の内美術館」の名で設計図も描かせていました。設計図が描かれてから一三〇年経ち、丸の内での開館という創設者の願いが実りました。また、彌之助は、アメリカの実業家であり、慈善活動家としても知られるアンドリュー・カーネギーの思想に共鳴し、カーネギーの著書『富の福音』の日本語版序文に「富める者の使命は、富を人々に還元させること」だと寄稿し、「（美術館は）大に市民を益する」と記しています。

美術館は、重要文化財の指定を受ける「明治生命館」の中に誕生しました。建物二階の会議室は、戦後、連合国が日本の占領や管理について協議した対日理事会の開催場所として、連合国軍最高司令官マッカーサーも訪れた歴史の舞台でもありました。文化庁と明治生命により、柱・天井・大理石の出入口など竣工当時のものを保存しながら活用する画期的な取り組みで運営されています。

名宝が響き合う岩崎家のコレクションは、彌之助・小彌太の父子二代による蒐集で逸話も多くあります。当時三三歳の彌之助が兄・彌太郎に給料を前借りして手に入れた唐物茄子茶入は、足利義満、松永久秀、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康らの手を渡った天下の名品であり、一国一城に値すると言われたそうです。また、英国留学を経て第四代社長を務めた小彌太は、東洋陶磁を系統的に蒐集し、茶道具の至宝と言われる国宝「曜変天目」を入手した後も「天下の名器を私に用うべからず」と、決して使用しなかったそうです。

広く人々に益することを成した父子の軌跡は、戦後の混乱期に行き場を失った子ども達を救うホームと学園を創設した澤田美喜先生の姿とも重なり、岩崎家の真髄を感じました。

STEPHEN'S NEWS

《表彰》

○硬筆書写技能検定試験　○実用数学技能検定
【五級】　中三　伊藤　【準二級】中三　佐藤
○実用英語技能検定
【五級】中一　原田　中二　草次　中三　粟野
【三級】中三　相野谷　飛嶋
【準二級】中三　飛嶋

○大磯町中学生交通安全標語コンクール
【最優秀賞】　中一　松本
【優秀賞】　中一　原田　岩満　中村

○大磯町小学生交通安全ポスターコンクール
【六学年　優秀賞】小六　木村

○第六十六回中郡ロードレース大会
【中学男子の部】第一位　大城　第二位　草次
第三位　澤村　第五位　七尾　第六位　中村
【中学女子の部】第二位　相原　第四位　畠山

○第六十一回大磯町民ロードレース大会
【男子一年の部】一位　中村　二位　松本　三位　山崎
【男子二年の部】一位　草次　二位　澤村　三位　七尾
【男子三年の部】一位　大城　二位　木村　三位　山崎
【女子二年の部】　一位　相原　二位　畠山

発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
校長　佐藤　紀明
ステパノだより編集委員会
〒255-0003
神奈川県中郡大磯町大磯８６８
TEL　０４６３-６１-１２９８
FAX　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二三年一月十七日（火）発行第272号